

2023年度日本バイアスロン連盟第1回理事会

議事録

- 1 日時：2023年6月10日（土）13：30～17：30
- 2 場所：日本バイアスロン連盟 206号会議室
- 3 出欠状況：出席理事3名（出口会長、高尾副会長～対面出席、中村理事～オンライン出席）
欠席理事3名（小原理事、滝澤理事、関理事）
出席監事1名（北村監事）
- 4 議長選出：定款の定めにより、出口会長を議長に選出した。
- 5 書記委嘱：荻野事務局長に委嘱した。議事録作成の資料とするため、荻野事務局長から理事会の様態を録画する旨提案があり、承認された。
- 6 審議：
 - (1) 2022年度事業報告
山村事務局顧問の報告によるべきところ入院加療中につき荻野事務局長が代行で報告。承認された。
 - (2) 2022年度決算報告及び監査報告
山村事務局顧問の報告によるべきところ入院加療中につき荻野事務局長が代行で報告。
北村監事から、決算書の監査報告について事務局との認識相違から通帳の写しと残高証明書の照合が完了できていないとの説明あり。事後速やかに確認を行う必要があることから、荻野事務局長から可及的速やかに当該書類を北村監事宛てに提出するよう指示があった。
※ 上記について6月14日に北海道銀行及び北洋銀行から2023年3月31日時点の残高証明書及び当該日の残高が印字された通帳の写しを北村監事に速達で郵送し確認を依頼。改めて当連盟の財務報告が適正である旨確認された（別添監査報告書のとおり）。
 - (3) 2023年度日本バイアスロン連盟 NF 組織について
配布資料による説明が実施された。
組織図について、秋田県連の佐藤理事長から秋田県連の代議員が小坂氏から佐藤氏に変更になっているとの申し出があった。荻野事務局長により理事会終了後修正する旨回答した。
 - (4) 2023年度日本バイアスロン連盟 PF 組織について
資料により説明が行われた。特に疑義事項等はなかった。
 - (5) 2023年度日本バイアスロン連盟事業について
資料に基づき各説明担当者から説明があった。
主な質疑事項、承認事項等は以下のとおり。
 - ・マテリアル計画について
実施計画を見たところ、対象者も教官もが自衛隊ばかりでこれでは連盟事業なのか自衛隊事業なのか分からない。ナショナルチーム全体に対する講習会の視点で、シニアだけではなくユース・ジュニアも含めてチームを考えてほしい。そうすると自ずと地方組織も講習の対象者に入ってくるはずだ【高尾副会長】。
→ その方向性で再度検討する【高橋マテリアル副部長】
 - ・秋田県バイアスロン連合事業について
日本連盟による秋田県でのバイアスロンのPRをもっとお願いしたい。立崎英由子選手に続くような選手の発掘と育成を目指し頑張っていきたいと考えているので……。また、出来れば英由子さん本人の協力もいただきたい【佐藤秋田県連理事長】
→ 承知した【高尾副会長】
 - ・第60回バイアスロン日本選手権大会及び第95回宮様スキー大会国際競技会について
今年度は回数的にも区切りの大会と考えている。大会開催マニュアルを整備してノウハウとシステムの文書化・デジタル化も進めていく【高尾副会長】
 - ・埼玉県バイアスロン連盟事業について
ハイパフォーマンスだけではなく、ライフパフォーマンスのダブルの広がりを持たせて社会全体働きかけていくアプローチが必要。新規会員は20代を取り込む工夫がもっと必要。そのためには、冬ではなく夏の間に大会開催が必要（冬は各自クロカンの大会に出場するため）。これは、

同様の事業を展開しようと計画している北海道連盟と協働で進めていきたいところ。

ITによる分析事業として、引き続き立教大学との連携体制構築を進めていきたい。これは埼玉県連の活動というよりはもっと大きい事業（←日本連盟が主体となって行うような）かも知れないと考えている【梅原埼玉県連会長】。

・アスリート委員会について

競技からの引退及び若い世代の選手加入という状況を受け、2023年度から委員の入れ替えについて配布資料のとおり立崎英由子副委員長から提議あり。承認された。

(6) 2023年度予算計画について

予算計画の概要とポイントについて荻野事務局長から配布資料により説明があり、承認された。

(7) その他

2024年度からの公益社団法人化について荻野事務局長から説明があり、承認された。

以上